



福岡市政記者各位

令和6年3月8日  
経済観光文化局文化振興課

## 令和5年度 福岡市文学賞 受賞者の決定 及び 贈呈式の開催について

令和5年度福岡市文学賞の受賞者が決定しました。下記のとおり贈呈式を行いますので、ぜひ取材いただきますよう、よろしくお願いいたします。

### ■ 受賞者（3名）

ありかわ 【短歌】有川	ちづこ 知津子	しまはら 【俳句】島原	きみよ 仁代	やまね 【川柳】山根	きよし 清
----------------	------------	----------------	-----------	---------------	----------

### ■ 贈呈式

日時：令和6年3月23日（土） 13時～14時頃

場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホール  
（福岡市中央区天神 1-4-1 西日本新聞会館 16階）

#### ○記念作品集の刊行

受賞者の作品を収録した「記念作品集」を、4月上旬以降に福岡市総合図書館と各分館で貸し出します。（情報プラザ等でも閲覧可）

#### ○福岡市文学賞について

【制度創設】昭和45年度

【受賞基準】本市または福岡都市圏に居住し、優れた著書の出版、もしくは、優れた作品を継続的に発表するなど、近年顕著な文学創作活動を行ったと認められる個人

添付資料 別紙1 令和5年度（第54回）福岡市文学賞の受賞者について  
別紙2 令和5年度（第54回）福岡市文学賞選考経過

【問い合わせ先】 経済観光文化局文化振興課 横溝  
電話：092-711-4664 内線1801

令和5年度（第54回）福岡市文学賞の受賞者について



○有川 知津子（ありかわ ちづこ） 【短歌】

昭和44年生まれ。平成10年「コスモス短歌会」入会。平成25年「第35回コスモス評論賞」受賞。令和4年「第68回O先生賞受賞」。令和5年「福岡県歌人会第1回歌集賞（優秀歌集賞）」受賞、「第70回コスモス賞」受賞。福岡市博多区在住。

【著書】 『斎藤茂吉研究—詩法におけるニーチェの影響』（平成31年）  
歌集『ボトルシップ』（令和5年）



○島原 仁代（しまはら きみよ） 【俳句】

昭和13年生まれ。平成8年「冬野」入会。平成16年「ホトトギス」入会。平成18年「日本伝統俳句協会」入会。平成29年「ホトトギス」同人。福岡市西区在住。

【著書】 句集『旅の途』（令和5年）



○山根 清（やまね きよし） 【川柳】

昭和18年生まれ。平成18年「太宰府川柳倶楽部」発会に携わる。平成18年「福岡川柳倶楽部」同人。平成23年「ふあうすと川柳社」同人。令和3年「兵庫県川柳祭読売新聞社賞」受賞。令和3年「太宰府川柳倶楽部会長」就任。太宰府市在住。

（敬称略）

## 令和 5 年度（第 54 回）福岡市文学賞選考経過

### 【短歌部門】

今年度も、前年度に引き続き桜川冴子、藤野早苗、山下翔の三名で選考をおこなった。

まず、二〇二二年十一月から二〇二三年十月までに刊行された七冊の歌集について、一冊ずつその魅力と欠点について意見を出し合い、協議した。その上で、平田利栄『タスマニアの空』、有川知津子『ボトルシップ』、山中もとひ『生きてこの世の 木下<sup>キタ</sup>にあそぶ』(刊行順)の三冊を最終候補と決定した。

- ・平田利栄『タスマニアの空』(角川文化振興財団)

第六歌集。具体的に即した自然体のうたい口で、これまでの歌集とは違った面も見せて評価された。

小学校教師の母のえりあしを父は剃りみき行事のときに

一方で、生活詠を中心とした日記調のうたには、当たり前といえば当たり前、突き抜けた何かがあるか？ という指摘もあった。

- ・有川知津子『ボトルシップ』(本阿弥書店)

第一歌集。すでに福岡県歌人会の優秀歌集賞を受賞しており、一首屹立の理知的な歌風による詩世界と、その完成度が支持を集めた。

さらさらと微分されゆくはなびらよ春のひと日の風の演算

ただ、その知的なところが、いささかうたを窮屈なものにしているのではないか、という意見もあった。

- ・山中もとひ『生きてこの世の 木下<sup>キタ</sup>にあそぶ』(六花書林)

第二歌集。独特の面白い歌が一冊を貫く。機知に富んだ、「現代」を切り取る力の高い作者でもある。

〈無〉という字を見るたび思う〈無〉にしては複雑すぎる形と思う

山埜井喜美枝に師事した作者だが、その影響下から抜け出し得ていないのではないか、心に訴えかけてくるものがもう少し欲しい、との声もあがった。

例年に比べ、今年度は特に、さまざまな作風の歌集が集まったことで、議論は長時間に及んだ。また、作者のこれまでの作歌活動のなかで評価するのか、あるいは現代短歌のシーン全体においてどうかなど、多角的に検討を重ねつつ、最終的に有川知津子『ボトルシップ』を受賞作として推薦することで一致した。

### 【俳句部門】

結社の句会や各協会の大会も再会したが不況と俳人の高齢化のため句集出版が激減。その代わりに紙媒体を介さない句集出現や結社に属さない若者たちのネット句会があり福岡市文学賞の俳句部門の対象作品の渉獵が一層困難になっている。

今年度の最終候補は著者五十音順に沖律子『はぜもみじ』、島原仁代『旅の途』、月溪花代『牧花』の三冊で一冊ずつ検討した。

#### 沖律子『はぜもみじ』

著者は一九七一年頃より伝統的の俳人堀川炭舟より手ほどきを受け、その後、しばらくは結社「露」にて倉田紘文の指導を仰いでいる。そのため沖の俳句の柱は素十の説く写生であると言えよう。〈えんどうの蔓の先なる花二三〉〈秋なすの花の小さく小さくて〉など透徹した写生の目が魅力。さらに、そこに人物を添えた、〈子供らのかざりしひなの向うむく〉〈春の海四五人釣の人のあり〉などにも独特の柔らかさがあり好ましい。

#### 島原仁代『旅の途』

著者は一九九五年より伝統派俳人、久野行人の指導を受け作句を開始。その後、「冬野」の池田昭雄、阿比留初見らに師事し「ホトトギス」の写生を学ぶ。二〇一七年「ホトトギス」同人。二〇二一年より日本伝統俳句協会九州支部の評議員としても活躍する。島原の俳句も写生眼が生き対象の核心を見事に掴んでいる句が多い。〈夏霞壱岐遠ざけて近づけて〉〈遠くより近きが昏き春の闇〉などにその特徴が顕著だ。また、島原作品には〈何喰はぬ顔して海鼠太古より〉〈骨のなき水母にもある夢ひとつ〉という滑稽味もある。

#### 月溪花代『牧花』

著者は二〇一六年より「ホトトギス」に初投句、二〇二一年、同誌同人。月溪も写生派の俳人であるが、前二者とはやや異なり、〈俳諧をこころに秘めし秋灯下〉〈どこでも生きていけます姫女苑〉など人事句に佳句が多い。表記も口語調を多用し冒険している。ただ、〈はにかむ娘若草色の笑み呉れし〉の季語性、〈飛んでるよ飛び来る報や初蛩〉の表記法、〈故郷は近くて遠し墓参〉の既視感などが問題となった。

以上、慎重に検討した結果、『旅の途』を全員一致で受賞と決定した。

### 【川柳部門】

本年度の選考に際し、これまでの文学賞受賞者へ候補者の推薦アンケートを実施した。その結果、三名の候補者が挙げられたが、山根清氏が最多（過半数）であった。この結果を踏まえて、選考委員三名による協議に入った。

候補に挙げられた三名の今年度の選考期間内（令和四年十二月から令和五年十一月）の作品（同人誌・大会誌・福岡市川柳協会誌）などに発表された個々の川柳作品および大会等の活動と結果について比較考量した。

山根清氏は長年、福岡川柳倶楽部の太宰府天満宮川柳大会開催や大会誌の発行などの活躍や、市の大会へのサポート、および太宰府川柳倶楽部会長としての活動が高く評価されている。

今回、「川柳ふあうすと」同人句、太宰府川柳倶楽部、福岡市川柳作家協会誌「笛」の発表句および、山根清川柳句集「想いの端」を選考対象とした。

安否不明哀し虚構の長寿国  
論客が無言をとおす裏事情  
名刹の落ち葉を掃いている無粋  
欠片にも幹を支えた自負がある  
自画像はまだ鮮やかな眉をして

説得力のある句が並ぶ。人の世の不条理や悲哀そして人生の喜びをてらいや気取りもなく詠まれており、氏の川柳哲学だろう伝統的な落ち着きと安定した川柳感に溢れている。今後も、氏の川柳を探求されていくことはもとより指導者として、ますますのご活躍を願っております。なお、候補に挙げた二名については、川柳の新しい視点や大会結果について評価できるが、年間を通しての発表句の安定性や活動内容において将来を期待したいという結果となった。

よって今年度の福岡市文学賞に山根清氏を推薦することといたしました。